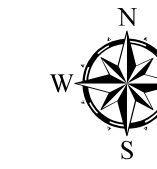


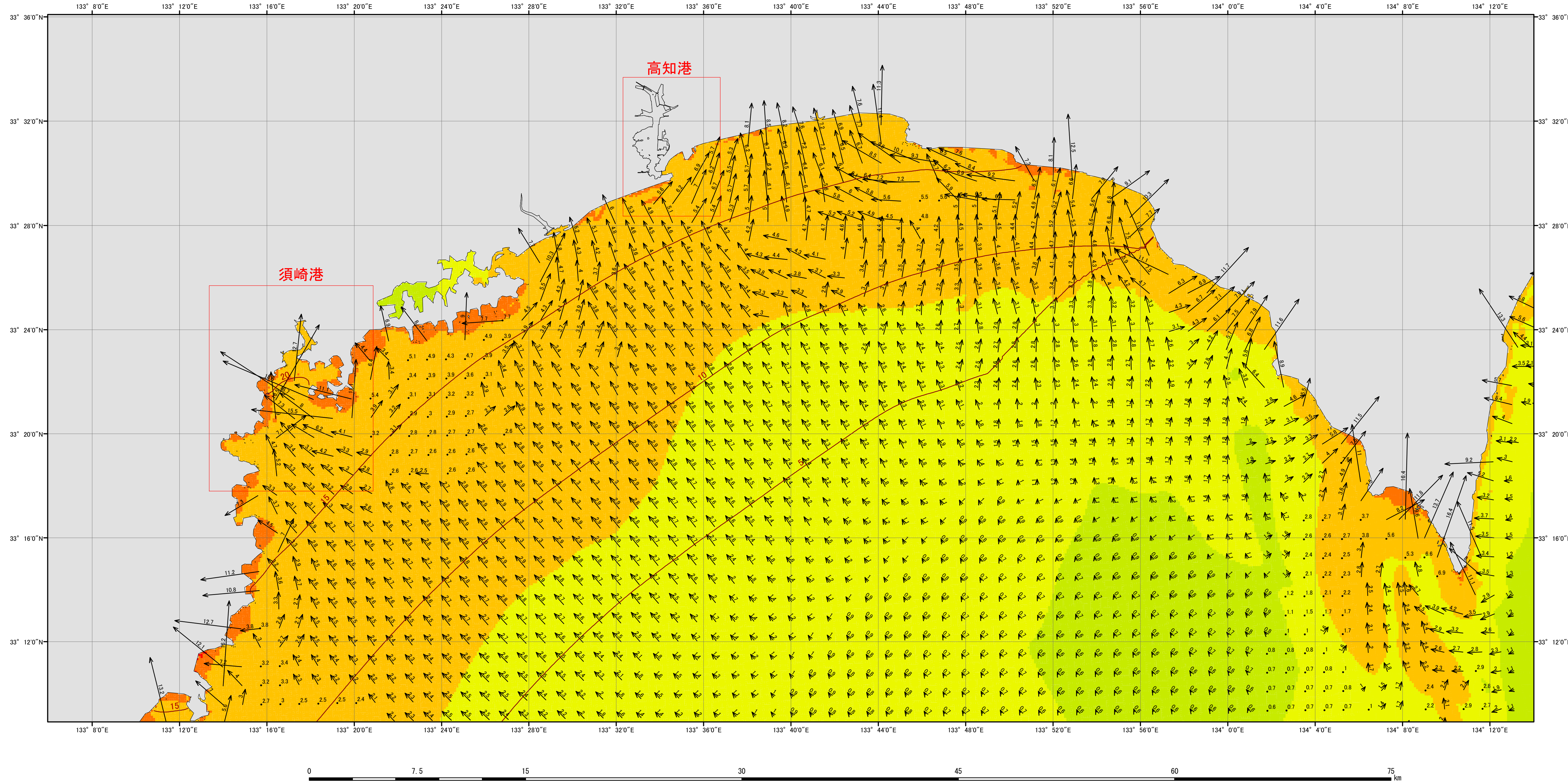
四国南岸（中央部）広域津波防災情報図（進入図）



座標系:メルカトル図法
測地系:世界測地系(WGS84)

計算条件: 最高水面(零位)
Zo: 1.10m
隆起量: 平均 -0.20m(-1.69m ~ +3.26m)
備考: 本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。

赤枠内には、さらに詳細な港湾の津波防災情報図があります。

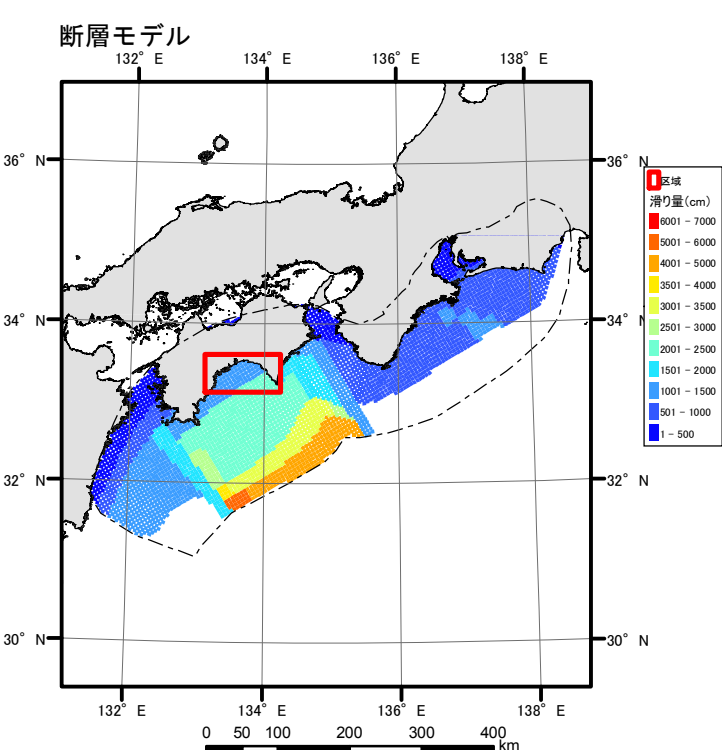


凡例

- 最大水位上昇
- 20m 以上
 - 10~20m
 - 5~10m
 - 3~5m
 - 2~3m
 - 0.5~2m
 - 0.5未満

- 進入時最大流 [knot]
- 6 knot
 - 4 knot
 - 2 knot

- 流向変化が激しく、進入・引潮等の判別が困難な海域では、流速のみを表示した。
- 流向、流速については、陸岸から概ね500m以上離れた地点から表示した。
- 津波の到達時間は、水位が最高水面から10cm変動した時点を算出している。



ケース④「四国沖に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km ²)	140,000
地震モーメント Mo (N・m)	6.4 X 10 ²²
平均すべり量 D (m)	10.8
モーメントマグニチュード Mw	9.1

○ 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10.2 対応)」を使用した。
○ 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。
・海上保安庁が保有する水深データ

作成機関: 海上保安庁
防災情報図作成年月: 平成29年6月(初版)
地形データ作成年月: 平成19年10月(初版)
平成24年3月(改訂)

本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)(平成24年8月29日発表)」により公表されたものである。
使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、高知港周辺において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。